

2015年9月10日
NPO 法人知的資源イニシアティブ

関係各位

Library of the Year 2015 優秀賞の決定および最終選考について

「Library of the Year(ライブラリー・オブ・ザ・イヤー) – 良い図書館を良いと言う」は、これからの日本の公共図書館のあり方を示唆する、先進的な活動を行っている機関(図書館に限らない)に対して、NPO 法人知的資源イニシアティブ(IRI)が毎年授与する賞です。

2015 年は、IRI メンバーおよび外部推薦で寄せられた 27 施設・団体・サービスの中から、下記の 4 機関が優秀賞に選ばれ、大賞の最終選考対象となりました。

○くまもと森都心プラザ図書館

熊本駅前のまちづくりの拠点として新都市創出に貢献し、毎年 100 万名以上の来館を達成している点を評価した。一般的なお話会等にとどまらず、図書館活用セミナーや写真展・展示会、試飲会等、従来の図書館の枠にはまらない事業を展開し、かつ図書館機能と連動させていることは、これからの図書館の可能性を打ち出すモデルとなりうる。

<http://stsplaza.jp/library/>

○塩尻市立図書館／えんぱーく

人口 6 万 6000 名の町でありながら、開館 5 年で累計来場者 300 万名を達成していることは、地方の小都市においては異例の成果であり評価できる。単なる図書館単独施設ではなく、一体的な組織運営も含め塩尻を中心とした周辺地域の市民交流機能をあわせ持っていることは、これからの時代の地方都市における文化施設のあり方を端的に示している。

<https://www.library-shiojiri.jp/>

○多治見市図書館

地域の産業に根差した「陶磁器資料コレクション」はビジネス支援・産業支援として本来図書館が取り組むべき課題に明確に向き合っている。特に収集が難しいミュージアムやギャラリーの図録を数千点規模で収集しており、この「司書が足で稼ぐ」収集活動のありようは、他の図書館にとって極めて示唆的である。

<http://www.lib.tajimi.gifu.jp/>

○B&B

2012 年に東京・下北沢で開店して以降、従来の書店のあり方(経営、企画)に大きな波紋を投じており、地方で衰退する「まちの小さな本屋さん」の復興のきざしとも取れる。ま

た、地域コミュニティと密接に関わって開催されるイベントは図書館からも注目を集めており、Library of the Year で評価する意義がある。

<http://bookandbeer.com/>

<最終選考について>

2015年11月12日(木) 15時30分～17時00分、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)にて、今回決定した優秀賞4機関を対象として、一般公開の最終選考会を開催いたします。最終選考会では、各機関についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを経て、審査員7名(選考会一般参加者票1票を含む)の投票によって大賞を決定します。あわせて、大賞機関および優秀賞機関の表彰式を行います。

この最終選考会は、パシフィコ横浜などで開催される第17回図書館総合展(2015年11月10日～11月12日)の一環として行われます。

<Library of the Year について>

「Library of the Year」は、IRIの選考を担当する委員会(委員長:昭和女子大学特任教授 大串夏身)が中心となり、図書館など全国の知的情報資源に関わる機関を対象として授与する賞で、2006年に始まりました。

選考基準は、以下のとおりです。全国の公共図書館を総合的に評価して、ベストの図書館を決めるものではありません。

- ①今後の公共図書館のあり方を示唆する先進的な活動を行なっている。
- ②公立図書館に限らず、公開された図書館的活動をしている機関、団体、活動を対象とする。
- ③最近の1～3年間程度の活動を評価対象期間とする。

過去の授賞機関は以下のとおりです(詳しくはIRIホームページ内“Library of the Year”をご覧ください <http://www.iri-net.org/loy/>)。

第1回の“Library of the Year 2006”の大賞は、鳥取県立図書館が受賞しました。県全域を対象として、学校、企業、公的機関など様々な県内の機関と連携しながら、地域に関わって活動することにより、地域の役に立つ図書館をめざす、というこれからの図書館のあり方を示した点が評価されました。

<http://www.library.pref.tottori.jp/>

第2回の“Library of the Year 2007”の大賞は、愛荘町立愛知川図書館が受賞しました。図書館員がそれぞれの専門分野を持ち、町づくりに積極的に関わっている点が評価されました。

http://www.town.aisho.shiga.jp/pdf/koho/0801/ais_pr080112.pdf

第3回の“Library of the Year 2008”の大賞は、千代田区立千代田図書館が受賞しました。都心型図書館の新しいモデルとなることを意識し、図書館コンシェルジュ、古書店と連携した展示・販売仲介、電子図書貸出サービスなど数多くの新規サービスを展開し、地域の様々な機関との連携を進めたことが評価されました。

<http://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/koho/pressrelease/h20/h2011/h201127-02.html>

第4回の“Library of the Year 2009”の大賞は、大阪市立中央図書館が受賞しました。HP が四ヶ国語で作られるなど「開かれた図書館」を実践している点、データベースの数が多く利用が簡単であるなど、図書館でのデータベース利用のモデルを示している点が評価されました。

<http://www.oml.city.osaka.lg.jp/>

第5回の“Library of the Year 2010”の大賞は、カーリルが受賞しました。全国5,000館を超える図書館・図書室蔵書の横断検索サービスとして、従来の図書館系のサイトWeb サービスを凌駕している点、図書館界に留まらず大きな話題となった点が評価されました。

http://blog.calil.jp/2010/11/library-of-year-2010_29.html

第6回の“Library of the Year 2011”の大賞は、小布施町立図書館が受賞しました。「交流と創造を楽しむ文化の拠点」として、各種イベントの実施や地元の方100人のインタビューの電子書籍化を行うなど、小布施文化や地域活性化の拠点としての活動を進めている点が今後の地域の公共図書館の在り方の参考となる点が評価されました。

<http://www.machitoshoterrasow.com/loy2011.html>

第7回の“Library of the Year 2012”の大賞は、ビブリオバトルが受賞しました。「人を通じて本を知る／本を通じて人を知る」というコンセプトを掲げた知的書評合戦として、全国大会が行われるほどの盛り上がりを見せており、継続的に行われていること、各地で開催されていることなども評価されました。

<http://www.bibliobattle.jp/whatsnew/libraryoftheyear2012>
dashangshouhangnogobaogao

第8回の“Library of the Year 2013”の大賞は、伊那市立図書館が受賞しました。iPad/iPhone アプリケーション「高遠ぶらり」を活用した「街中探索ワークショップ」や、地域通貨「りぶら」の活用など、図書館というハコや仕組みの枠を超えた新鮮な提案とその推進により、新しい公共空間としての地域図書館の可能性を拓いている点が評価されました。

http://www.inacity.jp/shisetsu/library_museum/ina_library/news/libraryoftheyear.html

第9回の“Library of the Year 2014”の大賞は、京都府立総合資料館が受賞しました。「東寺百合文書 WEB」は、収録データを CC ライセンスに準拠する「オープンデータ」とし、いわゆる「OpenGLAM」の格好の事例となっています。誰もが自由に利用できると明示して提供したこの姿勢が、MLA 機関の指針となっている点が高く評価されました。

<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

<クラウドファンディングについて>

Library of the Year 2015 実施に向けて、クラウドファンディングを活用した資金調達を行っています。

ご協力をお待ちしています！

【第3弾】全国の良い図書館を表彰する Library of the Year を開催 READYFOR
(募集期限:2015年9月28日 目標金額:250,000円)

<https://readyfor.jp/projects/loy2015>

■お問い合わせ先 NPO 法人知的資源イニシアティブ事務局 info@iri-net.org
<http://www.iri-net.org/loy/>